

## 事後評価結果(平成21年度)

担 当 課 : 西日本高速道路(株)計画設計グループ

担当課長名 : 竹 本 勝 典

<b>事業名</b>	四国横断自動車道 愛南大洲線 (西予宇和～大洲北只)	<b>事業区分</b>	高速自動車国道	<b>事業主体</b>	西日本高速道路(株)				
<b>起終点</b>	自: 愛媛県西予市宇和町 至: 愛媛県大洲市北只			<b>延長</b>	15.7km				
<b>事業概要</b>									
愛媛県愛南町を起点として宇和島市、西予市を經由し、大洲市に至る延長63kmの国土開発幹線自動車道である「四国横断自動車道 愛南大洲線」のうち、西予宇和 IC から大洲北只 IC 間を暫定2車線にて整備を行った。									
<b>事業の目的・必要性</b>									
四国四県の広域的なネットワークはもとより、四国縦貫自動車道さらには本州四国連絡道路と相まって、本州との結びつきを深め、四国8の字ネットワークの一部として、四国における産業、経済、文化の発展に大きく貢献することが期待される。									
<b>事業概要図</b>									
<b>事業の 効果等</b>	<b>事業期間</b>	事業化年度	平成5年度	用地着手	平成8年度	供用年	(当初)平成12年度	変動	1.4倍
		都市計画決定		工事着手	平成10年度		(実績)平成16年度		
	<b>事業費</b>	計画時	(名目値)	563億円	実績	(名目値)	557億円	変動	0.99倍
			(実質値)	524億円		(実質値)	518億円		
	<b>交通量</b> (当該路線)	計画時	3,500台/日 (平成16年度)		実績	4,600台/日 (平成16年度)		変動	1.31倍
<b>旅行速度向上</b> (供用前現道 当路線)	43 54 km/h (平成11年) (平成19年)		<b>交通事故減少</b> (供用前現道 供用後現道+当路線)		43 16件/億台キロ (平成13~15年) (平成17~19年)				

	費用便益 分析結果 (事後)	B / C  2.0	総費用 795 億円 事業費: 670 億円 維持管理費: 125 億円	総便益 1,574 億円 走行時間短縮便益: 1,299 億円 走行経費減少便益: 195 億円 交通事故減少便益: 79 億円	基準年  平成21年
	事業遅延によるコスト増		費用増加額  19億円	便益減少額  120億円	
事業の 効果等	事業遅延の理由				
	地質・土質調査の結果、道路構造の見直し(土工 トンネル)及び地滑り対策工の追加が必要になったこと等により遅れが生じた。				
	客観的評価指標に対応する事後評価項目				
事業 による 環境 変化	当該路線の整備によるバス路線の利便性向上の状況				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇和島駅～松山駅とを結ぶ路線バスに、評価区間を通る特急が新設され、運行便数及び輸送人員が増加し、路線バス利用者の利便性向上が図られた。  所要時間：(急行)約2時間 (特急)約1時間45分【約15分短縮】  輸送人員：(H13)116千人/年 (H20)328千人/年【約2.8倍】</li> </ul>				
	主要な観光地へのアクセス向上による効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>西予市の観光地が旅行プランに取り込まれ地域の活性化に貢献  宇和米博物館 入込客数：(H13)18千人 (H20)23千人</li> <li>地域特産品の競争性の確保に貢献</li> <li>高速道路ネットワークの形成により、「みかん、まだい(養殖)」の産地である南予地方から大阪、東京までの輸送時間の短縮や利便性が向上し、高い全国シェアを維持</li> </ul> 他数項目について効果の発現が見られる。				
その他評価すべきと判断した項目					
「えひめ町並博 2004」開催時のアクセス支援					
<ul style="list-style-type: none"> <li>えひめ町並博 2004 活動記録(来訪者アンケート)によると、南予地方以外からの来訪者が「約8割」、自動車及びバスを交通手段とした来訪者が「約7割」を占める。</li> </ul>					
環境影響評価に対応する項目					
【大気質】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>高速道路沿道の一般環境大気測定局の測定データにアセスメント時の高速道路に起因する値を加えても環境保全目標を満足する。  NO2:日平均値の年間98%値 0.019~0.021ppm(0.04~0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下)  CO:日平均値の年間2%除外値 0.347~0.364ppm(10ppm以下)</li> </ul>					
【騒音】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境アセスメントで予測した断面について、H20年平均交通量を用いて再現計算を行った結果最も厳しい断面で環境保全目標値を満足する。  再現値:51dB(夜間) (65dB(夜間)) ( )内は環境保全目標値</li> </ul>					
その他評価すべきと判断した項目					
特になし					

事業評価監視委員会の意見	
事業評価監視委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針(案)のとおり一定の整備効果が得られていると判断される。	
事業を巡る社会経済情勢等の変化	
<p>【市町村合併の動き】</p> <p>西予市は、平成 16 年 4 月に三瓶町、明浜町、宇和町、野村町、城川町の合併により誕生。 大洲市は、平成 17 年 1 月に長浜町、肱川町、河辺村を編入合併した。</p> <p>【県内総生産・人口の推移】</p> <p>愛媛県の県内総生産は、増減を繰り返しているが総じて減少傾向にある。また、愛媛県の人口は昭和 30 年をピークに減少傾向にあり、沿線の西予市、大洲市の人口も同様に減少傾向にある。</p> <p>【交通量の推移】</p> <p>供用開始した平成 16 年以降、増加傾向にある。</p>	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	
<p>費用対効果分析の結果や利用状況、事業の効果の発現状況から一定の整備効果が得られており、今後の事後評価の必要性はない。</p> <p>今後、高速道路ネットワークの延伸により、更なる効果が発揮されるものと期待されることから、国土交通省において事業中である西予宇和 IC～宇和島北 IC 間の円滑な進捗が図られるよう協力するとともに、地域との連携・協力を図りながら利用促進に努める。</p>	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	
特になし	
特記事項	
特になし	

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの